

衝撃!!! 東海第二原発 内部告発 施工不良でまた工事中断

鉄筋の変形、コンクリ未充填…

安全対策の"要"に欠陥!!



写真：施工不良について会見する江尻かな県議(左)と大名美恵子東海村議 = 10月16日、県庁記者クラブ

はじめまして！最近茨城に引っ越してきたよ

海も山もあって食べ物も美味しくてとっても良いところ☆

ハタっち園芸と陶芸が好き。



おしえて！エジカナ

地震に弱い老朽原発津波に耐えられる？

日本共産党の江尻かな県議は10月16日、県庁で会見を開き、東海第二原発の再稼働に向けた工事について、地震・津波対策として建設中の防潮堤基礎部分に施工不良の疑いがあると明らかにしました。江尻県議は、工事関係者から共産党に内部告発があったとして、①取水口※1部分の防潮堤基礎となる南北2つの「地中連続壁」でコンク

原発が近いのが、ちょっと怖い

「安全だ」って話だしまあ大丈夫だよな！



リートが正しく打設されていない②鉄筋が正しい形状で組まれていない③北基礎が岩盤に到達していない※④基礎をつくる際の安定液の比重が正しく保たれていなかった——などの問題を指摘。その事実を確認するために、江尻県議は事業者の日本原電に「質問書」を提出していました。

原電は、江尻県議の会見当日になって月例報告を発表し、「今年6月にコンクリートの未充填及び鉄筋の変形等が確認された」と施工不良を初めて公表。「今後、補修・補強計画を立案する」とし、共産党への回答に施工不良で工事を中断していること示しました。また、この間公表しなかったことについて「隠ぺいではない」と説明しましたが、7月に周辺市村長が現地を視察した際に「工事は順調に進んでいる」としていました。

東海第二原発は現在、来年9月の再稼働をめざして防潮堤などの対策工事を継続。これまで工期を2回延期しており、告発を寄せた工事関係者は、工期最優先で工事を進めたことが施工不良の一番の要因と訴えています。

(※1)電気を作るために使った蒸気を冷やすために、海水が利用されています。その海水を発電所へ取り入れるところを「取水口」、冷やした後に海へ戻すところは「放水口」と呼ばれます。

(※2)裏面の下部にて詳しく解説しています。

それが、実は大丈夫ではなかったのです…

えっ!!?

困ったことが起きてるので説明しますね

エジカナ(江尻かな県議)

続きはウラ面へ

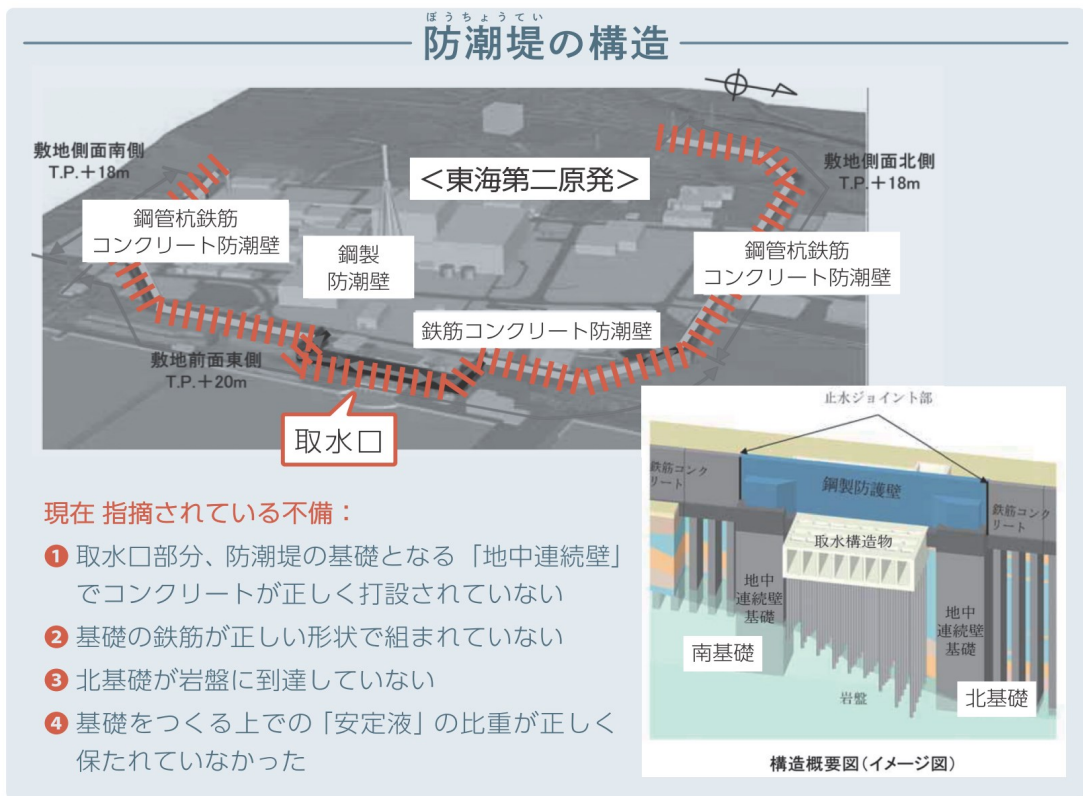


問題発覚の経緯

- 9月6日 今年春まで現場にいた工事関係者(以下、A氏)が、防潮堤基礎工事の施工不良を日本原電東海事業本部に電話で通報
- 7日 A氏から日本共産党の大名美恵子東海村議に電話で告発
- 8日 A氏から、しんぶん赤旗支部に電話で告発
- 11日 江尻県議が、大名村議と赤旗記者から告発内容を聞き取り。県原子力安全対策課に伝えた上で、県としても原電に確認するよう要請。
- 12日 原電東海事業本部の社員が県庁に来て原子力安全対策課に説明。「通報は『公益通報』扱いのため言及できないが、基礎部分の施工不良は今年4月と6月および8月に確認し、現在も対応方針を検討中」とのこと
- 20日 日本共産党として、A氏にオンラインで聞き取り。江尻県議、大名村議のほか、塩川鉄也衆議院議員、岩淵友参議院議員、笠井亮衆議院議員秘書が参加
- 22日 日本共産党から原電東海事業本部に「質問書」送付、10月6日までの回答を要求。茨城県と東海村に同主旨で「要請書」提出
- 10月4日 原電東海事業本部から期限内には回答できない旨の電話連絡あり。「13日までに再度連絡する」とのこと
- 13日 昼前、日本共産党で記者会見を行うことを記者クラブに連絡、レクを予約。午後、原電東海事業本部から「10月16日に回答したい」旨の電話連絡あり

内部告発メモ

東海第二原発
今年4月～8月まで、東海第二原発(茨城県大洗町)において
① 防潮堤基礎、防潮堤の基礎部分の施工不良が確認された。
② 取水口、コンクリートが充填されていない。
③ 鉄筋の変形等が確認された。
④ 基礎部分の安定液の比重が正しく保たれていなかった。
⑤ 現場作業員が、現場作業員から共産党に内部告発があった。
⑥ 現場作業員が、現場作業員から共産党に内部告発があった。
⑦ 現場作業員が、現場作業員から共産党に内部告発があった。
⑧ 現場作業員が、現場作業員から共産党に内部告発があった。
⑨ 現場作業員が、現場作業員から共産党に内部告発があった。
⑩ 現場作業員が、現場作業員から共産党に内部告発があった。



ところが…

その工事には、とんでもない不備があつて

しかも、それが隠されていたことがわかったのです。

内部告発メモ



問題が続々と発覚… 再稼働なんて無理!!

東海第二原発の防潮堤工事で施工不良が明らかになった問題で10月19日、コンクリートの未充填や鉄筋の変形だけでなく、北基礎が支持層の岩盤に到達していない可能性が大きいことがわかりました。江尻県議が共産党国会議員とともに原子力規制庁に行ったヒアリングで明らかになったもので、工事関係者の告発とも合致します。

新たに施工不良が判明したのは、取水口部分の鋼製防護壁を支える北側の基礎部分。基礎をつくる鉄筋力ゴが工事計画の深さにまで沈んでおらず、高い位置で止まっている状態にあることが分かりました。ヒアリングで原子力規制庁の担当者は、鉄筋力

ゴの高止まりを認めた上で、「最終的に是正し、設計通りにやる必要がある」と説明しました。担当者の仰天発言

「報告義務はない」↑えっ!!

その一方で、規制庁担当者は工事中の不備について「規制庁や自治体への報告義務はない」とし、工事検査は完了時に行うと説明。江尻県議が「見えない地下部分をどうやって検査するのか」と質問したのに対し、「原電からの説明や書類をもとに検査することになる」と答えました。

大井川知事も10月20日の定例会見で、「工事中の問題点は、原子力安全協定上は報告義務のないもので、特に問題はない」との認識を示しています。

江尻県議は、「完了後だけでなく今すぐ現場確認が必要。原電が鉄筋力ゴの高止まりを公表していないのも問題だ」と強調しました。

工期最優先のしわ寄せで…

安全を軽視する日本原電

東海第二原発でずさんな工事が進んでいる実態が、工事関係者の告発と共産党の調査で明らかになりました。しかも、原電自身が「安全性向上対策の要」とする防潮堤での施工不良です。この間、原発立地周辺6市村でつくる首長懇談会や県が独自に検証する「安全性検討ワーキングチーム会合」が開かれています。原電は一連の経過について説明していません。自治体や住民を軽視し、安全まで軽視する日本原電に、原発を再稼働する資格はありません。

